

2026年3月12日

2026年2月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判・巻取ともに目立ったスポット案件が少なく、特に巻取は昨年を大きく下回る販売量となった。巻取については販売数量減に伴い、在庫量が大幅に増えた。

（前年比 平判 94.6%・巻取 78.9%）

再生紙平判は役所、官公庁関連の定期案件に終始し、昨年と同等となった。巻取は目立ったスポット案件がなく、前年を大きく下回り、再生紙全体で昨年を下回る形となった。

（前年比 平判 103.1%・巻取 78.7% 再生上質計 89.2%）

巻取が昨年比で大きく落とし、印刷用紙 A 全体で昨年を下回る結果となった。また平判、巻取共に在庫量が対前月比で増えている。

（印刷用紙 A 全体前年比 91.7%）

<A2 コート>

平判は、量販店、スーパー、デリバリー等のチラシで一部動きがあったが、特段目立った案件は無く全体的に動きが鈍かった。マットはほぼ前年並みだったが、グロスは前年を大幅に下回った。

巻取は、ドラッグストア、ホームセンター等定期チラシ関連で一部において動きがあった。不動産関連や保険関連大口スポットがあったためグロスはや前年を上回り、マットは昨年落ち込んだこともあって大幅に上回った。

（前年比 平判 93.8% 巻取 120.2% 全体 99.4%）

<A3 コート>

スーパーやデリバリー等の定期的なチラシ、スポット案件の動きが見られたが、カタログ等の商印関連の動きが継続的に鈍く、平判は前年を上回ったが、巻取は前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 102.7% 巻取 80.8% 全体 87.6%）

<ノーカーボン紙>

平判は生損保系の動きはあるものの、金融系帳票の動きが低調。

巻取は大口スポットもなく、前月好調の反動もあり巻取は大幅に前年を下回った。

（前年比 平判 94.1% 巻取 79.5%）

<上質フォーム>

自治体の国保などの納付書案件で動きはあるものの、民間案件が目立ったスポットもなく前年を下回った。
(前年比 88.7%)

<包装用紙>

特殊両更・両更晒・色クラフトは物価高騰支援用封筒・保険会社向け封筒が堅実に動き、昨年とほぼ同等の動きとなった。

軽包装は印刷用紙の需要期の為、製本会社を中心に雑包装用途の使用が増えた。また、その他用途でも一部で大口スポットが動いた事もあり、昨年を大きく上回った。

純白ロールはお彼岸の生花向けや菓子用包装用途などに動きが見られた。

例月並みの数字ではあるが、比較的低調であった昨年を上回った。

包装紙全体でも 113.3%と昨年を上回った。

(前年比 113.3%)

<板紙>

コートボールについては、価格修正の影響で一部のユーザーから積み増しの動きも見られ、また昨年実績も悪かったこともあり、前年を上回った。

高板は依然としてトレーディングカード需要が堅調だが、前月に価格修正の積み増しがあり前年を下回った。

特板はトレーディングカード用ケース、医薬・化粧品が堅調で前年を上回った。

チップボールは出版用途での落ち込みが続き低調であった。エンタメ系のスポット案件も振るわなかったため前年を下回った。

全体的には昨年実績低調からの反動増により前年を上回る結果となった。

(前年同月 104.6%)